

農地法第3条の規定による許可申請書

押印してください。

清須市農業委員長 殿

<譲渡人>

住所 清須市〇〇〇▼▼▼1

氏名 清洲 三郎

印

下記農地（採草放牧地）について

印

年 月 日

農地法第3条の許可申請書は、複数枚になりますので、割印を忘れないようご注意ください。

押印してください。

印

<譲受人>

住所 清須市須ケ口1238番地

氏名 清須 一郎

印

を

設定（期間 年）

移転

押印してください。

したので、農地法第3条第1項に規定する許可を申請します。（該当する内容に○をつけてください。）

記

1 申請者の氏名等（国籍等は、所有権を移転する場合に譲受人のみ記載してください。）

申請者	氏名	年齢	職業	住所	国籍等	在留資格 又は特別 永住者	在留期間 及び在留 期間の満 了の日	認定経営 発展法人 （該当す る場合○）
譲渡人	清洲 三郎	◇◇	農業	清須市〇〇〇▼▼▼1				
譲受人	清須 一郎	◇◇	農業	清須市須ケ口 1238 番地	日本			

2 許可を受けようとする土地の所在等（土地の登記事項証明書を添付してください。）

所在・地番	地目		面積 (㎡)	対価、賃料等の額 (円) 〔10a 当たりの額〕	所有者の氏名 又は名称 〔現所有者が登記簿 と異なる場合は () 内に記載〕	所有権以外の使用収益権 が設定されている場合	
	登記簿	現況				権利の種 類、内容	権利者の 氏名又は 名称
〇〇◆◆◆111番	畑	畑	500	5,000,000 (10,000,000円/10a)	清洲 三郎 ()		
以下余白				(円/10a)	()	実際の売買価格 から10aあたりを 算出する	
				(円/10a)	()		
				(円/10a)	()		
計	田						
	畑		500				

3 権利を設定し、又は移転しようとする事由の詳細

当事者	権 利 移 転 の 事 由
譲渡人	高齢により耕作できなくなったため。
譲受人	自己所有の農地と隣接しているため、一体利用が可能であり、規模拡大も可能となるため。

今回、許可申請することになった理由を記載する

申請にかかる権利関係等を記載する

4 権利を設定し、又は移転しようとする契約の内容

権 利 の 種 類	所有権移転
権利を移転し、又は設定しようとする時期	許 可 日 又は 年 月 日
土地の引き渡しをしようとする時期	許 可 日 又は 年 月 日
契 約 期 間	年 月 日 から 年
備 考	売買価格 ○○万円

5 その他参考となるべき事項

- (記載要領)
- 1 申請者の氏名(法人にあっては、その代表者の氏名)を自署する場合においては、押印を省略することができます。
 - 2 国籍等は、住民基本台帳法(昭和 42 年法律第 81 号)第 30 条の 45 に規定する国籍等(日本国籍の場合は、「日本」)を記載するとともに、中長期在留者にあっては在留資格、特別永住者にあってはその旨を併せて記載してください。法人にあっては、その設立に当たって準拠した法令を制定した国(内国法人の場合は、「日本」)を記載してください。また、在留資格を記載する場合は、在留期間(出入国管理及び難民認定法(昭和 26 年政令第 319 号)第 2 条の 2 第 3 項の在留期間をいう。)及び在留期間の満了の日も併せて記載してください。
 - 3 法人である場合は、住所は主たる事務所の所在地を、氏名は法人の名称及び代表者の氏名をそれぞれ記載し、定款又は寄付行為の写しを添付(独立行政法人及び地方公共団体を除く。)してください。なお、「年齢」欄の記載は省略してください。農業経営基盤強化促進法(昭和 55 年法律第 65 号)第 16 条の 3 第 1 項に規定する認定経営発展法人が譲渡人である場合には、記の 1 の「認定経営発展法人」に○を付した上で、認定を受けている認定発展計画の写しを添付してください。
 - 4 競売、民事調停等による単独行為での権利の設定又は移転である場合は、当該競売、民事調停等を証する書面を添付してください。
 - 5 記の 4 は、権利を設定又は移転しようとする時期、土地の引渡しを受けようとする時期、契約期間等を記載してください。また、水田裏作の目的に供するための権利を設定しようとする場合は、備考欄に水田裏作として耕作する期間の始期及び終期並びに当該水田の表作及び裏作の作付に係る事業の概要を併せて記載してください。

農地法第3条の規定による許可申請書（別添）

I 一般申請記載事項

＜農地法第3条第2項第1号関係＞

1－1 権利を取得しようとする者又はその世帯員等が所有権等を有する農地及び採草放牧地の利用状況

所有地		農地面積 (㎡)				採草放牧地面積 (㎡)
		田	畑	樹園地		
	自作地	2,500	800	1,700		
	貸付地	200		200		
		所在・地番		地目	面積 (㎡)	状況・理由
				登記簿	現況	
	非耕作地					

譲受人、借受人の
現在の所有、耕作
状況を記載する

所有地 以外の 土地		農地面積 (㎡)				採草放牧地面積 (㎡)
		田	畑	樹園地		
	借入地	300	300			
	貸付地					
		所在・地番		地目	面積 (㎡)	状況・理由
				登記簿	現況	
	非耕作地					

（記載要領）

- 1 「自作地」、「貸付地」及び「借入地」には、現に耕作又は養畜の事業に供されているものの面積を記載してください。また、複数市町村にまたがる場合には、「農地面積(㎡)」欄に市町村別面積を括弧書きで記載してください。
- 2 「非耕作地」には、現に耕作又は養畜の事業に供されていないものの状況・理由として、「賃借人〇〇が〇年間耕作を放棄している」、「～するが、草刈り・耕起等の農地としての管理を行っている」等耕作又は養畜していない理由を詳細に記載してください。

農地法、農業経営基盤強化
促進法による賃借の設定の
ある農地について記載する

1－2 権利を取得しようとする者又はその世帯員等の機械の所有の状況、農作業に従事する者の数及び配置の状況、農地法その他の農業に関する法令の遵守の状況等

(1) 作付（予定）作物、作物別の作付面積

	田	畑							
作付（予定）作物	米	にんじん	えだまめ	その他					
権利取得後の面積 (㎡)	1,100	500	800	900					3,300

上記の面積の作付け状況と今回の申請地の面積の合算を記載する
面積はそれぞれの地目の合計と合致すること

(2) 大農機具又は家畜

種類		田植機	トラクター	耕運機	軽トラ	
数量	確保しているもの	所有	1台	1台	1台	1台
		リース				
導入予定のもの	所有					
	リース					
(資金繰りについて)						

(記載要領)

- 「大農機具」とは、トラクター、耕うん機、自走式の田植機、コンバイン等です。「家畜」とは、農耕用に使役する牛、馬等です。
- 導入予定のものについては、自己資金、金融機関からの借入れ（融資を受けられることが確実なものに限る。）等資金繰りについても記載してください。
- 「確保しているもの」、「導入予定のもの」のそれぞれについて、所有又はリースの別に該当欄に記入してください。

(3) 農作業に従事する者の数及び配置の状況

① 権利を取得しようとする者が個人である場合には、その者の農作業経験等の状況	
農作業歴 30年	農業技術修学歴 年
② 世帯員等その他 常時雇用している 労働力（人）	現在： 2人 ・ 無（農作業経験の状況： 父〇〇年 母〇〇年）
	増員予定： 人 ・ 無（農作業経験の状況：
③ 臨時雇用労働力 （年間延人数）	現在： 人 ・ 無（農作業経験の状況：
	増員予定： 人 ・ 無（農作業経験の状況：

申請者を除いた世帯員で、従事日数 60 日以上の方のみ記載する

④ 配置の状況

（所有又は借入農地が複数市町村にまたがる場合は、市町村別に記載してください。隣接市町村などで位置が同じ場合は、該当する市町村を列記してください。なお、「住所地、拠点となる場所等」は、市町村名を記載してください。）

市町村	氏名	住所地・拠点となる場所等
清須市	清須 一郎	清須市須ケ口 1238 番地
	清須 太郎	清須市須ケ口 1238 番地
	清須 愛子	清須市須ケ口 1238 番地

⑤ ①～④の者の住所地、拠点となる場所等から権利を設定又は移転しようとする土地までの平均距離又は時間

平 均 距 離	平 均 時 間
◆◆km	自動車 ・ 自転車 ・ 徒歩 （ 5 ） 分

（４）農地法その他の農業に関する法令の遵守の状況等 （別紙１）に記載し、添付してください。

（５）その他の考慮すべき事項

（記載要領）

「（５）その他の考慮すべき事項」には、例えば、遠隔地に転居する予定の有無や、在留資格の更新等の見込みなどの考慮すべき事項があれば記載してください。

<農地法第3条第2項第2号関係>（権利を取得しようとする者が農地所有適格法人である場合のみ記載してください。）

2 その法人の構成員等の状況（別紙に記載し、添付してください。）

<農地法第3条第2項第3号関係>

3 信託契約の内容等（信託の引受けにより権利が取得される場合のみ記載してください。それ以外は無に○を記載。）

信託契約の有・無	信託契約の内容（信託契約が有の場合のみ記載して下さい。）
有 ・ 無	

<農地法第3条第2項第4号関係>（権利を取得しようとする者が個人である場合のみ記載してください。）

4 権利を取得しようとする者又はその世帯員等のその行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業への従事状況（「世帯員等」とは、住居及び生計を一にする親族並びに当該親族の行う耕作又は養畜の事業に従事するその他の2親等内の親族をいいます。）

(1) その行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業へ常時従事している者の氏名等

世帯員等	常時従事者の氏名	年齢	主たる職業	権利取得者との関係	農作業従事日数
	ア 清須 一郎	◇◇	農業	本人	300 日
	イ 清須 太郎	◇◇	農業	父	200 日
	ウ 清須 愛子	◇◇	農業	母	150 日
	エ				

(2) その者の農作業への従事状況（該当する期間(実績又は見込み)を「←→」で示してください。）

	作目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
その行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業の期間	米、にんじん、えだまめ	←											→
その者が農作業に常時従事する期間	ア	←											→
	イ	←											→
	ウ	←											→
	エ												

（「農作業に常時従事する期間」とは、その期間、必要な農作業(耕うん、播種、施肥、草取り等)にいつでも従事できる状態にあることをいいます。）

4(1)の世帯員等の従事状況を記載する

<農地法第3条第2項第5号関係>

5 農地又は採草放牧地につき所有権以外の権原に基づいて耕作又は養畜の事業を行う者（賃借人等）

が、その土地を貸し付け、又は質入れしようとする場合には、以下のうち該当するものに印を付してください。

☐ 賃借人等又はその世帯員等の死亡等によりその土地について耕作、採草又は家畜の放牧をすることができないため一時貸し付けようとする場合である。

☐ 賃借人等がその土地をその世帯員等に貸し付けようとする場合である。

☐ その土地を水田裏作（田において稲を通常栽培する期間以外の期間稲以外の作物を栽培すること。）の目的に供するため貸し付けようとする場合である。

（表作の作付内容＝ 、裏作の作付内容＝ ）

☐ 農地所有適格法人の常時従事者たる構成員がその土地をその法人に貸し付けようとする場合である。

<農地法第3条第2項第6号関係>

6 周辺地域との関係

権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における耕作又は養畜の事業が、権利を設定し、又は移転しようとする農地又は採草放牧地の周辺の農地又は採草放牧地の農業上の利用に及ぼすことが見込まれる影響を以下に記載してください。

（例えば、集落営農や経営体への集積等の取組への支障、農薬の使用法の違いによる耕作又は養畜の事業への支障等について記載してください。）

申請地周辺は畑作地帯であり、取得後もこれまでどおり野菜の栽培をしますので、周辺農地に支障を及ぼしません。また、農薬の使用基準も地域の取り決めに従います。

該当しない場合は記載不要

Ⅱ 使用貸借又は賃貸借に限る申請での追加記載事項

権利を取得しようとする者が、農地所有適格法人以外の法人である場合、又は、その者又はその世帯員等が農作業に常時従事しない場合には、添付資料 1 の記載事項に加え、以下も記載してください。

(留意事項)

農地法第 3 条第 3 項第 1 号に規定する条件その他適正な利用を確保するための条件が記載されている契約書の写しを添付してください。また、当該契約書には、「賃貸借契約が終了したときは、乙は、その終了の日から〇〇日以内に、甲に対して目的物を原状に復して返還する。乙が原状に復することができないときは、乙は甲に対し、甲が原状に復するために要する費用及び甲に与えた損失に相当する金額を支払う。」、「甲の責めに帰さない事由により賃貸借契約を終了させることとなった場合には、乙は、甲に対し賃借料の〇年分に相当する金額を違約金として支払う。」等を明記することが適当です。

<農地法第 3 条第 3 項第 2 号関係>

7 地域との役割分担の状況

地域の農業における他の農業者との役割分担について、具体的にどのような場面でどのような役割分担を担う計画であるかを以下に記載してください。

(例えば、農業の維持発展に関する話し合い活動への参加、農道、水路、ため池等の共同利用施設の取決めの遵守、獣害被害対策への協力等について記載してください。)

--

<農地法第 3 条第 3 項第 3 号関係> (権利を取得しようとする者が法人である場合のみ記載してください。)

8 その法人の業務を執行する役員又は重要な使用人のうち、その法人の行う耕作又は養畜の事業に常時従事する者の氏名及び役職名並びにその法人の行う耕作又は養畜の事業への従事状況

氏名	役職名	その者の耕作又は養畜の事業への従事状況	
		その法人が耕作又は養畜の事業(労務管理や市場開拓等を含む)を行う期間	そのうちその者が該当事業に参画・関与している期間
		か月／年	か月／年(直近の実績)
			か月／年(見 込 み)
		か月／年	か月／年(直近の実績)
			か月／年(見 込 み)
		か月／年	か月／年(直近の実績)
			か月／年(見 込 み)

該当しない場合は記載不要

Ⅲ 特殊事由により申請する場合の記載事項

9 以下のいずれかに該当する場合は、該当するものに印を付し、Ⅰの記載事項のうち指定の事項を記載するとともに、それぞれの事業・計画の内容を「事業・計画の内容」欄に記載してください。

(1) 以下の場合は、Ⅰの記載事項全ての記載が不要です。

- ☐ その取得しようとする権利が地上権(民法(明治29年法律第89号)第269条の2第1項の地上権)又はこれと内容と同じくするその他の権利である場合
(事業・計画の内容に加えて、周辺の土地、作物、家畜等の被害の防除施設の概要と関係権利者との調整の状況を「事業・計画の内容」欄に記載してください。)
- ☐ 農業協同組合法(昭和22年法律第132号)第10条第2項に規定する事業を行う農業協同組合若しくは農業協同組合連合会が、同項の委託を受けることにより農地又は採草放牧地の権利を取得しようとする場合、又は、農業協同組合若しくは農業協同組合連合会が、同法第11条の50第1項第1号に掲げる場合において使用貸借による権利若しくは賃借権を取得しようとする場合
- ☐ 権利を取得しようとする者が景観整備機構である場合
(景観法(平成16年法律第110号)第56条第2項の規定により市町村長の指定を受けたことを証する書面を添付してください。)

(2) 以下の場合は、Ⅰの1-2(効率要件)、2(農地所有適格法人要件)以外の記載事項を記載してください。

- ☐ 権利を取得しようとする者が法人であって、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地における耕作又は養畜の事業がその法人の主たる業務の運営に欠くことのできない試験研究又は農事指導のために行われると認められる場合
- ☐ 地方公共団体(都道府県を除く。)がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を公用又は公共用に供すると認められる場合
- ☐ 教育、医療又は社会福祉事業を行うことを目的として設立された学校法人、医療法人、社会福祉法人その他の営利を目的としない法人が、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を当該目的に係る業務の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合
- ☐ 独立行政法人農林水産消費安全技術センター、独立行政法人家畜改良センター又は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその業務の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合

(3) 以下の場合は、Ⅰの2(農地所有適格法人要件)以外の記載事項を記載してください。

- ☐ 農業協同組合、農業協同組合連合会又は農事組合法人（農業の経営の事業を行うものを除く。）がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を稚蚕共同飼育の用に供する桑園その他これらの法人の直接又は間接の構成員の行う農業に必要な施設の用に供すると認められる場合
- ☐ 森林組合、生産森林組合又は森林組合連合会がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその行う森林の経営又はこれらの法人の直接若しくは間接の構成員の行う森林の経営に必要な樹苗の採取又は育成の用に供すると認められる場合
- ☐ 乳牛又は肉用牛の飼養の合理化を図るため、その飼養の事業を行う者に対してその飼養の対象となる乳牛若しくは肉用牛を育成して供給し、又はその飼養の事業を行う者の委託を受けてその飼養の対象となる乳牛若しくは肉用牛を育成する事業を行う一般社団法人又は一般財団法人が、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を当該事業の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合

(留意事項)

上述の一般社団法人又は一般財団法人は、以下のいずれかに該当するものに限ります。該当していることを証する書面を添付してください。

- ・ その行う事業が上述の事業及びこれに附帯する事業に限られている一般社団法人で、農業協同組合、農業協同組合連合会、地方公共団体その他農林水産大臣が指定した者の有する議決権の数の合計が議決権の総数の4分の3以上を占めるもの
 - ・ 地方公共団体の有する議決権の数が議決権の総数の過半を占める一般社団法人又は地方公共団体の拠出した基本財産の額が基本財産の総額の過半を占める一般財団法人
- ☐ 東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社又は西日本高速道路株式会社がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその事業に必要な樹苗の育成の用に供すると認められる場合

(事業・計画の内容)

農地法その他の農業に関する法令の遵守の状況等（別紙1）

1 農地その他の農業に関する法令

（1）農地法(昭和 27 年法律第 229 号)

違反の対象となる規定	違反の有無
① 第 3 条(農地又は採草放牧地の権利移動の制限)	有・ 無
② 第 4 条(農地の転用の制限)	有・ 無
③ 第 5 条(農地又は採草放牧地の転用のための権利移動の制限)	有・ 無
④ 第 42 条(措置命令)	有・ 無

（2）農業振興地域の整備に関する法律(昭和 44 年法律第 48 号)

違反の対象となる規定	違反の有無
① 第 15 条の 2 (農用地区域内における開発行為の制限)	有・ 無
② 第 15 条の 3 (監督処分)	有・ 無

（3）種苗法(平成 10 年法律第 82 号)

違反の対象	違反の有無
第 24 条(育成者権又は専用利用権の侵害(第 20 条及び第 25 条参照))	有・ 無

（4）農薬取締法(昭和 23 年法律第 82 号)

違反の対象となる規定	違反の有無
第 24 条(使用の禁止)	有・ 無

2 1で「有」の場合

違反の時期	内容

3 過去に権利取得後の農地等を耕作又は養畜の事業に供することなく、取得後 3 年以内に他者に譲渡し、若しくは使用及び収益を目的とする権利を設定し、又は農地以外の者にする行為を行ったかの有無等

該当の有・無	行為の時期	内容	理由
有・ 無			

（記載事項）

- この様式には、権利取得者等（農地の権利を取得しようとする者又はその世帯員等）の状況等を記載してください。
- 1の(1)①については、偽りその他不正の手段により、許可を受けたものも含めて記載してください。
- 1の(1)②及び③については、農地法第 51 条第 1 項第 2 号から第 4 号に該当する者も含めて記載してください。
- 1の(1)及び3については、許可申請日から起算して過去 3 年分の状況等を記載してください。なお、1の(1)については、違反状態が是正されたものも含めて記載してください。
- 1の(2)、(3)及び(4)については、許可申請日現在の状況を記載してください。

農地所有適格法人としての事業等の状況（別紙２）

＜農地法第２条第３項第１号関係＞

農地所有適格法人の場合は記載すること

１－１ 事業の種類

区分	農 業		左記農業に該当しない事業 の内容
	生産する農畜産物	関連事業等の内容	
現在(実績又は見込み)			
権利取得後(予定)			

１－２ 売上高

年 度	農 業	左記農業に該当しない事業
３年前(実績)		
２年前(実績)		
１年前(実績)		
申請日の属する年 (実績又は見込み)		
２年目(見込み)		
３年目(見込み)		

<農地法第2条第3項第2号関係>

2 構成員全ての状況

(留意事項)

構成員であることを証する書面として、組員名簿又は株主名簿の写しを添付してください。

なお、農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法（平成14年法律第52号）第5条に規定する承認会社を構成員とする農地所有適格法人である場合には、「その構成員が承認会社であることを証する書面」及び「その構成員の株主名簿の写し」を添付してください。

(1) 農業関係者(権利提供者、常時従事者、農作業委託者、農地中間管理機構、地方公共団体、農業協同組合、投資円滑化法に基づく承認会社、農業経営基盤強化促進法に基づく関連事業者等)

氏名又は名称	住所又は主たる事務所の所在地	国籍等	在留資格又は特別永住者	議決権の数		構成員が個人の場合は以下のいずれかの状況				
				株主総会	種類株主総会	農地等の提供面積(m ²)		農業への従事状況(か月/年)		農作業委託の内容
						権利の種類	面積	直近実績	見込み	

(記載要領)

「農業への従事状況」には、その法人が農業(労務管理や市場開拓等も含みます。)を行う期間のうち、その者が当該事業に参画・関与している期間を記載してください。

その法人が行う農業に必要な年間総労働日数(労務管理や市場開拓等も含みます。)

か月／年

(2) 関連事業者（法人から物資の供給又は役務の提供を受けている者等）

氏名又は名称	住所又は主たる事務所の所在地	国籍等	在留資格又は特別永住者	議決権の数	
				株主総会	種類株主総会

	議決権の数		議決権の割合	
	株主総会	種類株主総会	株主総会	種類株主総会
(1) 農業関係者				
(2) 農業関係者以外の者				
計				

(1) 農業（労務管理や市場開拓等も含む。）への従事状況

氏名	住所	国籍等	在留資格 又は 特別永住者	役職	農業への 年間従事日数		必要な農作業への 年間従事日数	
					直近実績 (か/年)	見込み (か/年)	直近実績	見込み
ア								
イ								
ウ								
エ								

その法人が農業（労働管理や市場開拓等も含みます。）を行う期間： か月／年

(該当する期間を役員等ごとに、直近実績は「」、見込は「」で示してください。)

[illegible]

(記載要領)

- 1 「1-1 事業の種類」の「生産する農畜産物」欄には、法人の生産する農畜産物のうち、粗収益の50%を超えると認められるものの名称を記載してください。なお、いずれの農畜産物の粗収益も50%を超えない場合には、粗収益の多いものから順に3つの農畜産物の名称を記載してください。
- 2 「農業」には、以下に掲げる「関連事業等」を含み、また、農作業のほか、労務管理や市場開拓等も含みます。
 - (1) その法人が行う農業に関連する次に掲げる事業
 - ア 農畜産物を原料又は材料として使用する製造又は加工
 - イ 農畜産物若しくは林産物を変換して得られる電気又は農畜産物若しくは林産物を熱源とする熱の供給
 - ウ 農畜産物の貯蔵、運搬又は販売
 - エ 農業生産に必要な資材の製造
 - オ 農作業の受託
 - カ 農村滞在型余暇活動に利用される施設の設置及び運営並びに農村滞在型余暇活動を行う者を宿泊させること等農村滞在型余暇活動に必要な役務の提供
 - キ 農地に支柱を立てて設置する太陽光を電気に変換する設備の下で耕作を行う場合における当該施設による電気の供給
 - (2) 農業と併せ行う林業
 - (3) 農事組合法人を行う共同利用施設の設置又は農作業の共同化に関する事業
- 3 「1-2 売上高」の「農業」欄には、法人の行う耕作又は養畜の事業及び関連事業等の売上高の合計を記載し、それ以外の事業の売上高については、「左記農業に該当しない事業」欄に記載してください。

「1年前」から「3年前」の各欄には、その法人の決算が確定している事業年度の売上高の許可申請前3事業年度分をそれぞれ記載し(実績のない場合は空欄)、「申請日の属する年」から「3年目」の各欄には、権利を取得しようとする農地等を耕作又は養畜の事業に供することとなる日を含む事業年度を初年度とする3事業年度分の売上高の見込みをそれぞれ記載してください。
- 4 「2(1) 農業関係者」には、農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法(平成14年法律第52号)第5条に規定する承認会社が法人の構成員に含まれる場合には、その承認会社の議決権の数とともに、その承認会社の株主の氏名又は名称及び株主ごとの議決権の数を括弧書きで記載してください。

複数の承認会社が構成員となっている法人にあつては、承認会社ごとに区分して株主の状況を記載してください。
- 5 「議決権の数」及び「議決権の割合」の「種類株主総会」欄には、会社法(平成17年法律第86号)第108条第1項第8号に掲げる事項についての定めがある種類の株式を発行している場合に記載してください。
- 6 農地中間管理機構を通じて法人に農地等を提供している者が法人の構成員となっている場合、「2(1) 農業関係者」の「農地等の提供面積(㎡)」の「面積」欄には、その構成員が農地中間管理機構に使用賃借による権利又は賃借権を設定している農地等のうち、当該農地中間管理機構が当該法人に使用賃借による権利又は賃借権を設定している農地等の面積を記載してください。
- 7 2の住所又は主たる事務所の所在地及び国籍等並びに3(1)の国籍等並びに3(2)の国籍等の各欄については、所有権を移転する場合のみ記載してください(ただし、2の住所又は主たる事務所の所在地及び国籍等の各欄については、総株主の議決権の100分の5以上を有する株主又は出資の総額の100分の5以上に相当する出資をしているものに限る。))。

国籍等は、住民基本台帳法第30条の45に規定する国籍等(日本国籍の場合は、「日本」)を記載するとともに、中長期在留者にあつては在留資格、特別永住者にあつてはその旨を併せて記載してください。法人にあつては、その設立に当たって準拠した法令を制定した国(内国法人の場合は、「日本」)を記載してください。

なお、3(2)については、3(1)の理事等のうち、法人の農業に従事する者(原則年間150日以上)であつて、かつ、必要な農作業に農地法施行規則第8条に規定する日数(原則年間50日)以上従事する者がいない場合にのみ記載してください。